

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1072000032 | | |
| 法人名 | 株式会社 ファミリーケアシステム | | |
| 事業所名 | ケアホーム家族の家 新里 | | |
| 所在地 | 桐生市新里町新川2924-6 Tel.0277-74-6435 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 8月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時より大切にしている、施設の理念である「入所者様のありのままを受け入れる事・その人その人の個性、送ってきた人生を大切にすること」施設に入所しても自宅で過ごしてきたように当たり前の生活を送っていただく事・地域とのつながりを大切にすること・利用者様、ご家族様が希望する限りご利用者様の人生の最後の瞬間まで寄り添って行く事。を心掛け日々の介護を提供させていただいています。具体的な事では、月に1度以上の外食、外出(季節に合った場所や花、果物狩り)や年に1回の全入所者様参加の宿泊旅行などを行っています。ご希望があった時には、ご家族様も参加いただいています。なかなか面会に来られないご家族様のためには、月に1回の施設新聞の発行もしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/ |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げている「入居者のありのままを受け入れ、一人ひとりの歩んだ人生を大切に、自宅で過ごしていた普通の生活がホームで送れる為の支援」を、実践している。美化・レクリエーション・新聞・備品管理等の係りを決めて、係担当職員からの提案を会議で話し合い、運営に反映をさせている。また、職員担当制を振り入れてセンター方式によるアセスメントを行い、介護計画の達成状況は毎日介護記録に記載し、毎月のモニタリングで見直し、介護計画に沿った支援がされている。入居者は、近隣の散歩・屋外での食事や日光浴・職員との食材購入やゴミだし等日常的に戸外活動を行っており、また、季節の花見・外食・日帰り温泉の他、年に1回家族が参加する一泊旅行等の外出行事を楽しんでいる。家族が看取りのケアを希望するならば、医師・看護師の医療連携、職員の協力体制があり、看取りの介護が実践されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年9月27日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全職員が理念に基づき介護を行っている。カンファレンスを通し共通認識をもって介護している。 | 職員は、開設時からの理念を、カンファレンスや日頃のケアを通し話し合い、振り返りをしている。理念は共有されており、代表者・全職員は日々実践をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 隣組に加入し道路清掃や集会に参加している。市で行っている敬老会や運動会に参加している。 | 隣組に加入し、道路清掃等地域活動に参加したり、入居者は散歩時に地域の方と会話や挨拶を交わしている。保育園の運動会への招待・中学生の体験学習の受け入れ・二胡や尺八の演奏・歌やハンドマッサージ等のボランティア訪問があり、日常的に地域との交流が行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前は認知症サポーター養成講座など年に数回行っていたが、最近では年に1回程度の開催になっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議での意見を参考にしたり地域で介護での相談を受けたり相談したりしている。 | 2ヶ月毎の運営推進会議を、系列の小規模多機能型居宅介護事業所において同日に時間をずらしての開催をしている。行事や避難訓練に合わせて行なうこともある。入居状況・行事計画を報告し、地域の方から地域行事や花見等の情報や助言等を頂き、文化祭に作品を出展するなど話し合われた意見等をサービス向上に活用している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 相談事や事故報告、介護申請などを行っている。 | 市担当者とは、申請書類や訪問介護の利用など解からない事を相談したり、事故報告を密に行なう等により、関係を築きながら入居者の支援に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っておらず、夜間を除き施錠をしていない。 | 代表者及び全職員は、身体拘束をしないケアについて理解し、取り組みをしている。年1回は身体拘束研修会に参加し、会議で話し合っている。家族ヘリスクを十分に説明し、理解を求めて支援をしている。入居者の落ちつかない様子が見られると、買い物等一緒に外出する等して対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 強制はしていないが講習会や本などで職員各自学んでいる。カンファレンス等話し合い時に意識している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 強制はしていないが講習会や本などで職員各自学んでいる。カンファレンス等話し合い時に意識している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分に説明を行いご利用者様、ご家族の希望をうかがい理解していただいたうえで契約を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者様の様子や態度表情からどんな思いなのかを読み取って、ご利用者様本位の介護の提供を心掛けている。面会に来られたご家族様には何でも言って下されるような雰囲気づくりを心掛けている。 | 苦情は会議で検討し、代表者より家族に説明されている。毎月の支払いや面会の際に、家族から希望や意見等を聞くよう働きかけている。また、理念にあるように入居者に寄り添い、利用者の思いを態度や表情等から汲み取っている。家族の要望により外出の機会を多くしたり、行事に家族の参加を呼びかけるなど実践している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回の運営会議にて意見交換を活発に行い業務に反映できている。 | 毎月の運営会議で、意見交換が行われている。職員は、美化・新聞・営繕・写真・備品・行事等係を分担し、係担当者からの提案等を話し合い運営に反映をさせている。研修や希望休などは勤務調整し、職員を育てる取り組みをしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 慢性的な職員不足により有給休暇をなかなか取らせることが難しい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のレベルにあった研修や希望の研修に順次参加してもらうよう心掛けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 年に2回のレベルアップ研修にて交換研修に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 理念に基づきご利用者様のありのままを受け入れ安心して生活できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご利用者様、ご家族様が困っている事や求めている事を傾聴し事業所としてできる事を説明し話し合いを行っていく限り協力している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 運営者、管理者、ケアマネが相談口となり、提供できるサービスを説明している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は仕事だけでなく生活を共にするものとして意識するよう心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | いつでもご家族の訪問を受け入れ少しでもご家族と共に過ごせる時間が持てるよう心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | センター方式を活用しご利用者様の人生を大事にし、親しんだ地域に外出したりしている。 | 入居者の生活歴等から、馴染みの場や人を把握している。地域の運動会や花火大会・花見・買い物に出かけ、そこでの馴染みの方との会話を大切にしている。また、職員は入居者と一緒に自宅へ行ったり、家族がホームに見えたり、自宅に連れ帰ったりして、馴染みの場や人との関係が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員はご利用者様と食事を一緒に取るように心掛け、気の合うご利用者様同士での外出の援助をおこなっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も要望があれば対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中から希望が聞き出せるように努め意思疎通の困難な方はご家族からの情報を得てどのような暮らしで満足いただけるか検討している。 | 日々の関わりから、意思の疎通が困難な方には、本人の表情やしぐさ・家族からの情報等により意向や思いを把握している。外食時は食べたい物が選べるフードコートに案内したり、衣類の買い物も好みの物が選べるよう支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を基に職員が何度もカンファレンスを行い理解と把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご利用者様一人一人の生活のリズムや体調や行動の変化に気を配り申し送りやカンファレンスを通して把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を用いてご利用者様やご家族様の思いをケアに反映できるように会議やカンファレンス、モニタリングを行いケアプランを作成している。 | 担当職員制を設け、センター方式を用いて情報を収集し、毎月のカンファレンスにおいて、家族の要望・医師の意見等を基に話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは日々行われ介護日誌に記録し、随時見直されている。計画は家族に説明し了承を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日2回の申し送りや個々の記録簿に毎日記載し職員間で情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設のデイサービスや宿泊、通院介助等必要に応じて支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 慰問等積極的に受け入れている。地域の運動会、文化祭に参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご利用者様やご家族の希望を聞き医師に協力していただき、往診・受信など必要に応じて対応している。 | 入居時に家族に希望を聞き、殆どの方が協力医をかかりつけ医としている。定期的に往診があり、健康相談をしている。歯科や他の科を受診の際は職員が同行支援し、受診結果は家族に報告をしている。看護師が日々バイタルチェックや薬の管理を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職の配置をし24時間対応できるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院設備を備えた医療機関と契約しており協力医として定期的にご利用者の健康状態を診ていただいている緊急時にも対応していただき連携を図っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族、医師、施設職員で話し合いをし終末期に向けたご利用者様、ご家族様の希望を明確にした看取り同意書を作成し、実行している。家族の思いや、気持ちの変化にも常に注意をして対応している。 | 重度化した場合や看取りについて家族の希望があるならば全面的に支援することを理念に掲げ、入居時に説明している。医師・看護師の医療連携と職員間のサポート体制があり、看取り支援を実践している。重度化が進行すると家族の希望を明確にした看取り同意書を作成し、繰り返しの話し合いを行い、方針を共有している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命講習等に定期的に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防署立ち合いの避難訓練を実施している。 | 年2回の内1回は消防署の立会いの下、夜間想定避難訓練を行なっている。避難経路・場所を確認し、緊急連絡網で実際に近くの職員が駆けつける時間等を計測している。訓練日に運営推進会議を開き、メンバーの参加を得ている。近隣の方に参加の呼びかけているが、参加には至っていない。飲料水は備蓄しており、その他は引き続き検討している。 | 地域の協力体制について運営推進会議の議題に挙げ、構築に向けて引き続き検討されるよう期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者様の誇り、尊厳を損なわないような対応と親しみと尊厳をもった言葉づかいを心掛けている。 | 入居者の人格を尊重し、○○さんと呼称している。管理者・代表者は不適切な声かけを耳にした場合には、指導をしている。また、馴染みの呼びかけが適切と思われる方は、カンファレンスで検討している。入室時は必ず声をかけ、排泄誘導時はさりげない声かけ等を実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | できる限りご利用者様の希望が実現できるよう心掛けている。月1回の外出などで実践している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の様子で1人1人に合った対応に努めている。日々の生活スタイルに合った対応の把握に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝、それぞれの整髪料使用し洋服も声掛けにて選択していただいている。おおよそ2か月に1回移動美容室を利用し希望のヘアスタイルにカットしていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者様のレベルに合ったお手伝いをいただいている。芋の皮むきや盛り付け配膳など。旬のものや行事に合ったものを提供している。 | 入居者の希望を聞き、在庫を見ながら、季節の食材を使い、職員が献立を考え調理している。入居者と職員は食材購入に出かけ、野菜の下拵え・テーブル拭き・配膳・下膳・お絞作り等を一緒に行なっている。職員は入居者と同じテーブルを囲み、食事介助をしながら楽しめるよう支援している。また、外出に出かけ入居者の好きな物を食べる等楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1人1人に合った量、バランスを把握に努めている。水分量も確保できるよう努めている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | オムツをできる限り使用せず。日中は全員トイレでの排泄を実践している。 | オムツは、できるだけ使用しない方針であり、昼間はリハパンツやパット・布パンツを着用している。夜間、必要な方にはポータブルトイレを使用している。排泄の記録や排泄のサイン等から声をかけ、誘導してトイレでの排泄の自立を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事、内服、運動等で便秘の予防に努め、排泄のコントロールを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 毎日17時過ぎから入浴介助を開始し1日の入浴者を4人以下にしてゆっくり入浴できるように心掛けている。 | 入浴は週3回程度、17時から夕食時間前に一人一人の介助者が対応している。希望により同性の介助・入浴の順番に配慮している。入浴を拒否する方には、介助者や日程の変更をするなど工夫している。仲の良い2人で入浴や職員と一緒に歌を歌うなど、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援をしている。年に数回日帰り温泉入浴を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご利用者様の体調に気を付け日中は活動を促し、生活にリズムをつけ夜間に自然な睡眠をとっていただくよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カンファレンスを通して各職員がご利用者様の内服の理解に努め、看護師が服薬の管理を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | センター方式を基に情報を収集しご利用者様に楽しみが持てるように散歩や音楽鑑賞、映画鑑賞やトランプ、花札、麻雀などを提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご利用者様の体調や天気に合わせて買い物やドライブ、季節行事の見学など積極的に外出援助を行っている。年に1回の温泉旅行も楽しみにしている。 | 入居者は、天気の良い日には近隣への散歩、玄関先の花の水遣り、屋外にテーブルを出しての食事や外気浴等の戸外活動をしている。また、職員と一緒にゴミ出しや食材購入に出かけたり、季節の花見・図書館・日帰り温泉の他、年1回の家族と一緒に泊旅行等幅広い外出支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族様の了解のもと、ご自身で金銭管理をしているご利用者様もいる。買い物などで自分の好きなものが買えるようにさりげなく支援もしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙のやり取りをなさっているご利用者様は現在いないが、ご家族様の了承を得て職員が間に入り電話させていただく事もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間に刺激の強いものはなく、壁には季節を感じる花や貼り絵を展示したり、前月の様子を撮った写真、施設新聞も展示している。 | 食堂兼居間を中央にして、周囲に居室やトイレ等が配置され、明るく広い空間となっている。食堂兼居間のコーナーには、ソファやテレビが置かれ寛ぎの場になっている。壁には季節を感じる花や生活や行事等のスナップ写真・入居者と一緒に創作した貼り絵等が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間に独りでいられる場所はないが気の合うご利用者様同士と一緒に過ごせるよう席次などに気を付けている。施設の構造上、共有スペースを中心に各ご利用者様の居室があるので独りになりたい方は居室に入り過ごされる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご利用者様のなじみの家具や写真等をご自宅より積極的に持ってきていただく事で居心地の良い居室を提供できるよう努めている。 | 居室には使い慣れた馴染みの筆筒等の家具やテレビが置かれている。また、家族の写真・塗り絵が飾られ、好みの衣類がハンガーにかけられている。入居者が居心地よく過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール内は見渡せるようになっており安全の確保に努め居室やトイレ厨房等わかりやすくなっている。 | | |